

## 「『こんにちは県議会です』地域住民等との意見交換会」開催概要

- 1 開催日時 令和4年8月24日（水）午後2時～午後4時10分
- 2 開催場所 県庁議会棟、県内各地（オンラインによる開催）
- 3 参加団体 味の素(株)関東支店長野営業所、イオンビッグ(株)、イオンリテール(株)北陸信越カンパニー、(株)しんえこ、直富商事(株)、松本市、松本市「暮らしと環境」を考える会、NPO法人みどりの市民

### 4 出席議員

議 長	丸山 栄一
副 議 長	高島 陽子
広報委員	竹内 正美、寺沢 功希、清水 正康、和田 明子
会派選出議員	大井 岳夫（自由民主党県議団） 小林 東一郎（改革・創造みらい） 川上 信彦（県民クラブ・公明） 山口 典久（日本共産党県議団）

### 5 意見交換テーマ

～環境政策のごみ問題はいま～  
循環型社会づくりをどう進めますか

### 6 開催内容

各団体等の取組紹介、グループ毎による意見交換・懇談

### 7 参加者 36名（議員10名、参加団体等26名）



## ○開会

(司会：高島副議長)

皆さん、こんにちは。ただ今から「こんにちは県議会です」を始めます。私は、本日の進行を務めます長野県議会副議長、広報委員会委員長も務めております高島陽子です。どうぞよろしくお願いたします。

## ○長野県議会議長あいさつ・県政報告

(高島副議長)

それでは、県議会を代表いたしまして、丸山栄一議長からあいさつ及び県政報告を申し上げます。丸山議長お願いします。

(丸山議長)

皆さん、こんにちは。県議会議長の丸山栄一と申します。

本日は、地域住民等の皆さんと意見交換を行う「こんにちは県議会です」を開催しましたところ、大変お忙しいなか、御参加をいただき誠にありがとうございます。

本来は、私どもが県下各地にうかがっての開催でありましたが、今回は、デジタル技術の活用と新型コロナ対策という両面から、オンラインによる開催といたしました。

さて、ここで少し時間をいただきまして、最近の県議会の主な取組に関しまして、7月1日まで開催されました6月定例会について、お話しさせていただきます。

原油や原材料などの価格の高騰や、コロナ禍で疲弊した産業への対応について、中心に議論が行われました。

様々な価格の高騰が、回復途上にあつた皆さんの生活や経済活動に、広く影響を及ぼしています。

知事からは、「長野県価格高騰緊急対策（第一弾）」の実施のための約52億円の補正予算が提出をされ、県議会といたしましても、国に対しまして、「原油等物価高騰対策を求める意見書」を提出したところでございます。

本会議の審議でも、価格高騰対策に関する議論がありました。

議員からは、急激な価格高騰により多大な影響を受けている県民や事業者の皆さんへの支援を求める意見が出されました。また、今回の価格高騰対策では飼料購入費への支援が行われておりますが、この支援は継続的に行われるとともに、肥料購入費への支援も必要ではないかという意見も出されたところでございます。

また、本日の意見交換のテーマにも関係します、エネルギー価格の高騰対策として、ゼロカーボンの推進、再生可能エネルギーへの転換が必要ではないかという意見がございました。

その他、6月定例会の概要は、先日の8月9日火曜日の朝刊に折り込みをしました長野県議会広報紙「こんにちは県議会です」に記載をしてあります。また、県議会のホームページにも掲載してありますので、是非ご覧をいただきたいと思います。

以上、最近の主な取組の紹介といたします。

さて、本日のテーマは、「～環境政策のごみ問題はいま～ 循環型社会づくりをどう進めますか」でございます。

ごみ問題については、スーパーなどの小売業者、リサイクル団体、廃棄物処理業者等、様々な企業、団体が関わっており、日々の取組のなかで、成果であったり、課題を抱えておられます。

本日は、そういった活動をされている企業、団体さんに御参加をいただいております。

プラスチック削減に取り組む「味の素株式会社 関東支店長野営業所」さん、「イオンビッグ株式会社」さんを始め、効率的な物流網整備など脱炭素を進める「イオンリテール株式会社 北陸信越カンパニー」さん、資源のリサイクル、処理を実施する「株式会社しんえこ」さん、「直富商事株式会社」さん、2050ゼロカーボンシティの実現を目指す「松本市」さん、食器をリユースとリサイクルに分別し、ごみの減量に取り組む「松本市「暮らしと環境」を考える会」さん、生ごみ削減のため、堆肥ネットワークシステムを構築した「NPO法人みどりの市民」さん、この8つの企業、団体の皆さんに参加をいただきましたので、多様な立場からの様々な御意見をお聞きできるものと大変楽しみにしているところでございます。

本日、お聞きしました御意見は、持続可能な循環型社会の実現を目指す議員活動等の参考にさせていただきたいと考えております。

結びになりますが、本日の意見交換が活発に行われ、実り多きものとなりますこと、そして、皆さんにとって、議会が少しでも身近な存在となりますことをご期待申し上げまして、挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。

## ○出席議員自己紹介

(高島副議長)

それでは、次に、本日の出席議員から自己紹介をしてもらいたいと思います。順次、私から指名してまいります。お願いします。

初めに、竹内正美議員。

(竹内議員)

皆さん、こんにちは。私は、千曲市と坂城町から選出いただいております竹内正美でござ

います。本日はどうぞよろしくお願いいたします。

(高島副議長)

次に、寺沢功希議員。

(寺沢議員)

安曇野市選出の寺沢功希です。本日は、よろしくお願いいたします。

(高島副議長)

次に、清水正康議員。

(清水議員)

こんにちは。上伊那郡区選出、宮田村の清水正康です。よろしくお願いいたします。

(高島副議長)

次に、和田明子議員。

(和田議員)

皆さん、こんにちは。長野市・上水内郡区選出の和田明子です。よろしくお願いいたします。

(高島副議長)

以上4名は、議会の広報委員を務めていただいています。

これ以降、会派選出議員として4名。初めに、大井岳夫議員。

(大井議員)

こんにちは。佐久市・北佐久郡区選出の大井岳夫です。よろしくお願いいたします。

(高島副議長)

小林東一郎議員。

(小林議員)

皆さん、こんにちは。中野市・下高井郡選出の小林東一郎です。よろしくお願いいたします。

(高島副議長)

川上信彦議員。

(川上議員)

皆さん、こんにちは。飯田市・下伊那郡区選出の川上信彦です。よろしくお願いいたします。

(高島副議長)

山口典久議員。

(山口議員)

こんにちは。長野市・上水内郡区選出の山口典久です。よろしくお願いいたします。

(高島副議長)

参加議員の紹介は以上です。

今回、御参加いただいております団体の皆様につきましては、恐れ入りますが、事前に、名簿を配付させていただきました。これによって御紹介とさせていただきますので、よろしくお願いいたします。

本日の進め方ですが、事前にお送りした次第のとおり、各団体の皆さんの活動を御紹介いただきます。そのあと、5つのグループに分かれて意見交換を行います。グループ分けは、なるべく異なる団体との組み合わせとなるようにいたしました。

また、本日の実施内容について、録画、録音をさせていただきます。後日、この文書や画像については、県議会のホームページに掲載するなど議会広報に活用いたしますので、よろしくお願いいたします。

なお、今回はオンラインということで、万全の準備はしておりますが、場合によって、御不便をおかけすることがあるかもしれません。今日も、早くから皆さんご準備いただきました。改めて、御理解や御協力をお願いいたします。

## ○取組紹介

(高島副議長)

お待たせいたしました。それでは、本日、御参加いただきました各団体の代表の方から、取組の概要や活動について発表をお願いしたいと思います。

進行の都合上、1団体、3分以内でお願いします。なお、事前にお送りしました参考資料を、それぞれ適宜ご覧ください。

初めに、味の素株式会社関東支店長野営業所 Aさんよろしくお願いいたします。

(味の素株式会社関東支店長野営業所)

本日はお招きいただきありがとうございます。

それでは、早速味の素グループの取組、環境問題に対する取組について御説明させていただきます。

今回、味の素グループ全体としてのグローバルな取組と、味の素長野営業所の長野県内におけるローカルな取組を二つに分けて御紹介させていただきます。

早速ですが、グループ全体の取組についてお話しさせていただきます。

私ども味の素グループでは、2030年までに環境負荷を50%削減させるという目標を掲げています。中でも特に気候変動対応、プラスチック廃棄物削減、そしてフードロスの削減に対しては、重点的に取り組む項目として挙げております。

その中で、具体例ですが、特に2030年までにプラスチック廃棄物をゼロにするということを目指して掲げておまして、このたび2022年4月には、代表的な商品であります「味の素」と「ハイミー」の2種類、プラス「スリムアップシュガー」などといった商品の詰め替え用パッケージをプラスチックから紙包材にリニューアルをさせていただきました。これによって、計算すると年間約12トンのプラスチック廃棄物を削減することとなります。

これを皮切りに、ほかにも恐らくおなじみのある商品かと思いますが、続々と紙パッケージに変更が予定されております。

商品としての品質を保ちながらも、環境負荷の低い素材へパッケージをリニューアルすることに関して、なかなかの苦労があったと聞いております。開発ストーリーが紹介されているウェブページがありますので、御興味がある方はぜひ御覧になってください。

具体例の二つ目です。味の素では、できるだけ環境に配慮した商品を購入したいというお客様のニーズにお応えする形で、独自の環境マークである「味なエコ」マークというものを表示しております。例えば、パッケージに再生紙を利用しているですとか、詰め替えをお勧めしているだとか、5点の項目に当てはまるものに関しましては、独自に「味なエコ」マークという基準を設けて、マークをつけています。該当する商品にマークをつけることで、環境への取組の内容を分かりやすく生活者の皆さんにお伝えするという取組をしております。

今、二つの具体例を簡単に御説明させていただきました。主に皆さんの手に取るような商品、身近なものを御案内させていただいたつもりですが、そのほかにもグローバルな取組として、環境への取組で様々なものがあります。ホームページで紹介していますので、また、興味のある方、そのほかの部分も御覧をいただければと思います。

簡単ではありますが、グローバルな取組は以上になりまして、続いては、長野営業所のローカルな取組に関して御説明させていただきたいと思っております。

まず、私ども味の素株式会社の長野営業所の御紹介をさせていただきます。私どもは、長野市の栗田、長野駅の東口にオフィスを構えておまして、社員数は6人体制で、長野県の県内全体をここからカバーしております。営業活動を行っていく中で、主には県内の量販店さん、つまりスーパーさんといったところと一緒に取り組んで企画を実施しているという次第です。そんな営業活動の中で取り組んでいる一例を御紹介させていただきます。

環境に配慮した、金曜日は冷蔵庫をきれいにしよう「クリーンフライデー」と題した企画となります。こちらの企画の概要をざっと御説明させていただきます。コンセプトは「1週間でも中途半端に余ってしまう食材を金曜日に無駄なく食べきっていきましょう。そして土日の買い物を楽しみましょう」というものです。これによって食品の無駄がなくなり家計も助かって、フードロスの削減にもつながるといような仕掛けを目指してやっています。

また、ちなみに、そうやってお客様が安心してお買い物を楽しんでくださるといことで、スーパーさんにとっても客数のアップにつながる好循環を生む企画としてこちらを御紹介させていただきます。

環境問題ですけれども、皆さんの生活に身近に感じていただけるようにという面では、販促物の工夫をさせていただいております。例えば、SDGsというものをイメージするのですが、「食卓から始めるエコライフ」とか、「おいしく食べてSDGs」といような形で、自分の生活と環境問題をなるべく近づけて考えられるようなそんな仕立てにしております。

実際に店頭で配布するメニューブックの内容を少し御紹介させていただきます。こんなふうに工夫するとうまく使い切れますよということだったり、あとはチーズで包んでしまうとどんな余った食材でもおいしく仕上げることができますね、余った食材をこうやってレスキューしてあげてくださいといような御提案。また、長野県の皆さんは、粉物文化といわれるようにたぶん大好きになってくださると思うんですけども、粉物で包んでもきっとおいしく、どんな野菜が残っても強い味方になってくれますよとかといような形で提案させていただきました。

実施した長野県Aコープさんの売り場でも、実際に並べる商品に関しては、先ほどお伝えした「味なエコ」マークがついている環境に配慮したものだったりとか、ペットボトルを使わない紙カップの油とか、やはり健康配慮の高いものを商品として並べさせていただきました。

Aコープさん以外にも、長野県内での代表的なスーパーさんであるツルヤさんですとか、デリシアさんでも同じような企画を、それぞれに少しずつカスタマイズして実施しました。

生活者の皆さんからは、使い切りのこつが分かりやすいとか、どんな商品が環境にいいのかわかったといったようなアンケートの御回答をいただきました。また、スーパーさんからも、ただ売るだけではなくて、使い切る方法を一緒に提案できるのがよいとか、買い物の点数を増やして買い物の回数を減らすことでまとめ買いを促進するといことがコロナ禍の現状に合っていますねといようなお褒めの言葉をいただきました。

今後も地域に根差したローカルな取組として、長野営業所でできる提案を続々と考えていきたいと考えております。営業所の取組事例は以上となります。

このように、味の素グループ全体での取組と、ローカルでできる取組を二つ併せながらやらせていただいているのが私どもの取組の特徴かと考えております。

では、簡単であります。味の素からの発表は以上です。ありがとうございました。

(高島副議長)

ありがとうございました。

次に、イオンビッグ株式会社のBさん、お願いいたします。

(イオンビッグ株式会社)

我々イオンビッグ株式会社は、今こちら名古屋に本社を構えまして、全国10県94店舗で運営しております。長野県下におきましても15店舗、ビッグの看板をつけて運営をさせていただいております。去年は6月に名古屋のほうのイオンビッグ株式会社様と合併させていただきました。今、本社が名古屋にあるという形となっております。昨年6月までは、マックスバリュート長野株式会社という形で、名古屋に本社を構えて15店舗のビッグを運営しておりました。昨年6月にイオンビッグ様と合併して、今名古屋に本社を置いた94店舗を構える企業となっております。

イオンビッグとしては、「お客様とともに目指すサステナブルな社会の実現に向けて」ということで、今、会社の従業員中心としては、皆様もそうなのですが、電気使用量の削減であったり、店頭のリソース回収ということで、アルミ、食品トレイなどの回収を進めています。あと、買い物袋の持参運動ということで、プラスチック削減ということでマイバッグでの販売を推進しております。

当然食品中心のスーパーマーケットですので、食品廃棄物の削減、あとは食品廃棄物の削減に当たって、商品をしっかり売り切るということで売り切りの徹底、売場の従業員及び本社は、こういった5点について取組をして、サステナブルな社会に向けて推進をしているところです。簡単ですが、以上でございます。

(高島副議長)

ありがとうございました。

それでは、イオンリテール株式会社北陸信越カンパニー、Cさん、お願いいたします。

(イオンリテール株式会社北陸信越カンパニー)

本日はよろしくお願いたします。

私どもイオンでは、サステナブルな経営に取り組んでいます。皆さんもご承知のように、持続可能な開発と呼ばれるような考え方がありますが、これは1992年にブラジルのリオで開催されました国連環境開発会議、いわゆる地球サミットで採択されたものであります。

このサミットの関連会議でありますリオサミット・ジャパンドーにイオンの前身となります当時のジャスコ会長が、NGOの代表の一員としてパネラーとして出席しております。それを契機といたしまして、イオングループでは30年以上、持続可能な経営の推進に努力をしているというようなことであります。

今回の意見交換会のテーマにも関連している部分では、脱炭素や気候変動、あるいは資源循環の推進や食品廃棄物の削減、あるいは国内外からの持続可能な商品の調達などを進めております。

イオンでは、それぞれの事業会社がそれぞれの事業内容のプロセスにおいてこうした項目での持続可能性を追求しているというところであります。イオンは流通グループでありますから、店舗の運営や商品調達、それを運ぶ物流体制の整備など、ビジネスプロセスの改革に加えて、来店していただきますお客様、多くのお客様にも御協力をお願いしながら、サステナブルな社会の実現を目指しているということであります。

また、イオンでは、ふるさとの森づくりとして店舗などで植樹を行っておりますけれども、30年余り続けた結果、現在では1,240万本となりました。林野庁によりますと、1本の立木で2.4kgのCO<sub>2</sub>を吸収するという試算がありますが、地域の皆様に参加していただいたイオンの植樹では、1年間で約2万9,800 tのCO<sub>2</sub>を吸収してくれることとなります。

こうした植樹も、当初はその土地土地に自生する樹木を店舗に残していくために始めたものでありますけれども、30年を経過した現在、CO<sub>2</sub>の吸収固定の面でも一定の効果をもたらしてくれています。これから先の数年、数十年でどのような環境変化が起こるかは予想はできませんが、それに対応できるよう、先手先手の取組でサステナブルな経営を続けていきたいと考えております。

本日は、皆様から貴重な御意見を伺える機会でもありますので、楽しみにしておりました。本日もよろしく願いいたします。私からは以上です。

(高島副議長)

ありがとうございました。

次に、株式会社しんえこ、Dさん、お願いいたします。

(株式会社しんえこ)

よろしく願いいたします。

私どもしんえこは、松本市・安曇野市を中心に新エネ、リサイクルの廃棄物処理をしている会社でございます。その中で、地域循環共生圏、ローカルSDGsの取組として、「もったいないBOX」を中心とした、地域資源循環プラットフォーム化及び地域のニーズに合った資源と廃棄物の有効利用を得意としております。一例としては、長野県内におけるペットボトルからペットボトル、PET to PET、特定家電の再商品化、大型シュレッダーによる高効率処理などの特色のある事業を展開しております。

しんえこでは、2019年より再生可能エネルギーを利用したRE100工場を稼働開始しております。リサイクル工場としては世界初の事例となり、現在松本本社工場、あづみ野プラザの2工場とも、RE100による工場稼働となっております。

松本平を中心に設置させていただいておる「もったいないBOX」ですが、17か所からの回収を実施しております。年間5,000トンを超える資源物を集めさせていただいております。資源リサイクルの過程において、障がい者を主体とした作業工程を積極的に行っております。その収益の一部はまた地域に還元させていただいております。

それから、事業としては、金属・古紙・プラスチック資源リサイクル、この部分で年間2万2,000トン、一般産業廃棄物処理で年間3,000トンを提供するサービスですが、「もったいないBOX」、その他「もったいないBOX」資源回収ステーション、かたづけ隊、これは片づけ・家屋解体・遺品整理、それから特定家電リサイクル、これは長野市・安曇野市限定が主なものとなっております。

弊社はグループの一員でございまして、グループとしては、TCFD（気候関連財務情報タスクフォース）への賛同により、カーボンニュートラルの達成を目標として、CO2排出抑制の適切な情報開示を推進しております。また、海洋プラスチックごみ問題に取り組むCLOMA（Clean Ocean Material Alliance）に加入して、廃プラスチックの3Rを推進、また先ほどお話しさせていただきましたRE100宣言を含め、しんえことしてもグループ会社の一員として、地域で求められる環境負荷低減の取組を推進しているところでございます。このRE100工場から生産される再生資源というのは、グリーンマテリアルとして流通し、現社会情勢から今後さらに需要が高まると考えております。

私どもしんえこの会社の説明は以上となります。本日はよろしくお願ひいたします。

（高島副議長）

ありがとうございました。

次に、直富商事株式会社のEさん、お願ひいたします。

（直富商事株式会社）

直富商事の取組を紹介させていただきます。

直富商事は廃棄物の適正処理、資源物の売買を主要業務としており、日々の業務の積み重ねを通じて、循環型社会の推進に協力させていただいております。

廃棄物においては、産業廃棄物、一般廃棄物を取扱い、法律が目的とする適正処理にのっとり、弊社の施設で廃棄物を減量化し、リサイクル可能な品目は再生利用品として出荷することで循環されます。

資源物の取扱いとしましては、古紙・古着・金属スクラップ・プラスチック・食品廃棄物を扱っています。これらの資源物を回収し、再生原料としてメーカーへ納入させていただいております。

プラスチックに特化した取組は、長野県が推進する信州プラスチックスマート運動協力事業者へ登録しております。使用済みの発泡トレイ、スチロール、ペットボトルを回収し、加工し

た再生資源を製造メーカーへ供給させていただいております。

解体工事、ビルメンテナンスは、廃棄物処理と直接の関わりはありませんが、この事業により、ビルメンテナンスを通じた建物の維持管理、その建物から発生する日常廃棄物の回収、建物の老朽化等により解体、その解体から発生する廃棄物処理というように、建物のライフサイクルに沿った対応を取れる体制でございます。

最後に技術研究室、分析の御説明をいたします。廃棄物のリサイクル方法を探し出すために、第一に必要なのは、そのものの性状把握と考えております。直富商事は廃棄物の元素組成を把握できる装置、蛍光X線装置という機械になりますが、無機物質の結晶構造を把握できる装置を所有しております。この装置を所有することで、製造業界において、製品のライフサイクル短縮化に合わせて変化する可能性がある廃棄物組成に追従して性状を把握することが可能となり、効率のよい廃棄物再資源化技術の開発が可能となります。

再資源化方法が未開発な廃棄物に対しても、今まで培ってきた分析力と開発力をもって、新たな廃棄物再資源化方法の研究に取り組み、実用化につなげることで持続可能な循環型社会へさらなる協力をさせていただきます。

本日会議には弊社から4名参加させていただきますが、今のサービス内容と併せて4名の担当業務を報告させていただきます。Aグループ参加者は一般廃棄物、それから資源物を担当しています。Bグループの参加者は産業廃棄物を担当しております。Cグループの参加者は技術研究・分析を担当しております。私はDグループになりますが、管理部門に所属しておりますが、直接のサービスには関与しておりませんが、こういった機会ですら外部団体との関わりを担当しておりますので、この後のディスカッションでよろしく願いいたします。

直富商事の紹介は以上となります。ありがとうございました。

(高島副議長)

ありがとうございました。

次に、松本市環境・地域エネルギー課のFさん、環境業務課のGさんお願いします。

(松本市環境・地域エネルギー課)

よろしく申し上げます。

では、松本市におけますごみ減量化の脱プラスチックの施策について御説明させていただきます。

松本市で掲げている目標でございますが、2015年にパリ協定が採択されまして、気温の上昇を産業革命前と比べて1.5°Cに抑えるようにということなので、二酸化炭素の排出量を2050年度までに実質ゼロにすることが必要ということで、松本市におきましても、令和2年12月に2050年までにゼロカーボンシティを目指すことを表明しております。

市民、事業者等が連携して次の取組を行うことになっております。エネルギーの地産地消、

3Rの推進、環境に配慮した車、また公共交通の利用ということを推進する。また、森林の整備や緑化を強化するなどの取組を行うこととなっております。

また、松本市の一般廃棄物処理基本計画につきましては、松本市のごみ処理分野における最上位の計画となっております。平成29年3月に計画を策定しております。計画期間につきましては10年間、ゴミ排出量の目標等を設定しております。キャッチフレーズにも書いてありますけれども、「減らそう！ 分けよう！ チャレンジ30・10」というところで、1日当たりの事業系のごみ、24年度比で30%減、家庭系ごみを24年度比で10%削減ということを目指しております。

(松本市環境業務課)

説明者を替わらせていただきます。続いて、本市のごみの現状について説明させていただきます。平成24年度以降、消費税率の改定や新型コロナウイルスに影響などで増加した令和元年度を除きまして減少傾向となっております。令和3年度は、平成17年に市町村合併がございまして、それ以降最少のごみの排出量ということになっております。

家庭系可燃ごみの組成調査と食品ロスの調査を実施しております。食品ロスや容器包装プラスチック、紙類などのリサイクル可能なものが約3割から4割含まれている状況でございます。減量対策として、主な取組についてこの後説明をさせていただきます。

(松本市環境・地域エネルギー課)

替わりまして、マイボトルの利用促進事業ということです。狙いといたしましては、環境に優しいライフスタイルへ転換のきっかけづくりというところでございます。ペットボトルを削減する、プラスチックごみを削減すると、これはごみの減量化とゼロカーボンの実現というところにつながっていきます。

あと、平成の名水百選にも選ばれております松本市のおいしい水を、市内外へPRするという内容も含まれております。取組内容につきましては、信州大学「アクアスポットプロジェクト」と連携をしております。信州大学が開発しておりますアクアスポット「swee」、これはマイボトル専用の給水器ですが、これを市内の5か所に令和3年度に設置をしております。今年度につきましては、お盆明けに5か所設置しております。市内10か所になっております。

その後、湧水や給水可能店舗とともに、給水可能地点を一体的に情報発信するために、ステッカーとポスターを作成し、市内に掲出し、周知・啓発に努めております。

(松本市環境業務課)

続いて、繊維プラスチック一括回収の取組です。御家庭から出るプラスチックごみのうち、これまで法に基づいて容器包装プラスチックにつきましては分別回収をいたしましてリサイク

ルをしていたものでございますが、それに加えて、可燃ごみに含まれている容器包装プラスチック以外のプラスチック、「繊維プラスチック」と書いてございますが、これも合わせて一括で回収して、プラスチック資源として全量リサイクルするということで事業を進めております。

さらに、目的はプラスチック類の焼却量を減らして二酸化炭素排出を削減すること。それと最終処分場の延命化を図ることが主な目的でございます。

令和3年度、昨年度環境省の支援を受けまして、市内の2地区で試験回収を行っております。令和5年4月、来年度から全市に展開するための準備を現在進めているところでございます。

(松本市環境・地域エネルギー課)

続きまして、食品ロス削減事業です。「あらゆるシーンで無駄なく賢く」ということで、松本スマートフード戦略ということになります。左側の従来の取組ということで、皆さんも御存じかと思いますが、松本市発祥の「30・10運動」ですが、こちらは既存で推進しておりました。それにプラスで、昨年度からDX、デジタル化、民間プラットフォームを活用いたしまして、「タベスケ」というサービスと「Kuradashi」というサービスを始めております。

「タベスケ」につきましては、小売店、また飲食店等を対象としておりまして、見切り品コーナーの充実・支援ということで、期限が迫ったものだとか、入荷ミスだとか、来店予測ミスで余ってしまったものをウェブ上に掲載して、ユーザーが買い取るというサービスでございます。

また、「Kuradashi」につきましては、食料品製造業者等が主な対象となりますけれども、製品の印字ミスをしてしまったとか、季節商品を過剰につくってしまったとかというときに、この「Kuradashi」さんのほうへ出品をして、ユーザーが買い取るというところでございます。これは昨年度から実施しており、今「まつもとタベスケ」につきましては、約30店舗の登録があり、県内ユーザーが大体2,700人程度というところでございます。

続きまして、「松本キッズ・リユースひろば」事業でございます。概要につきましては、短期間で使われなくなってしまいます子供用品、服や大型の遊具などを希望者に無料で配付する、リユースする事業でございます。こちらにつきましては、ごみの減量化と子育て支援を対象としております。配付会につきましては年6回程度開催しておりまして、実績といたしまして、令和3年につきましては、衣類等が1万1,400キログラム、大型日用品については390点、2,900キログラムを配付しています。

その下の不用食器リサイクル事業でございますが、こちらは家庭で不用になった食器を回収して、状態のよいものにつきましては配付、リユースをしている事業でございます。それ以外の割れたりしているものについては、原材料として再資源化をするリサイクルとなっております。こちらは市民団体との協働の取組となっております。

実績ですけれども、平成19年から令和3年で、リサイクル量が110トン、リユース量が15トン、昨年度はコロナがあつたのですが、年度末の3月に開催いたしまして、7.6トンの再資源

化をしております。

松本市からの説明は以上となります。今日はよろしく願いいたします。

(高島副議長)

ありがとうございました。

次に、松本市「暮らしと環境」を考える会のHさん、お願いいたします。

(松本市「暮らしと環境」を考える会)

今日はよろしく願いいたします。

私ども松本市「暮らしと環境」を考える会は、一般家庭で不使用になった食器を無料回収して、資源として再利用する活動を行っております。一般家庭の不用食器は行政が収集していますが、最終処分は埋立てとなります。そこで、食卓に彩りを添えて毎日使用している食器を埋め立ててしまうのはもったいないねとの思いから、ほかの処分方法を模索し、将来の環境や次世代の利益を守ることにつながるシステムをつくってきました。

消費者、使い手、それと生産地、作り手をシステムとしてつないで、市民団体、行政、生産地が連携して回収できる体制を整えて、今実行しております。

食器のリユースは、要らない人から要る人への橋渡しの場としての「もったいない市」を開催し、食器の地域内循環を促しています。「もったいない市」は、にぎわいやコミュニケーションのある風景が見られます。このあたりは、先ほど松本市の発表にもありますけれども、松本市との協働事業という形で行っております。

なお、この活動はマスコミなどの取材にもよりますが、反響が大きく、各地から問合せをいただいたことがありましたので、講師を派遣しまして、回収のノウハウをそれぞれの団体に提供してきました。その結果、現在は県内16の行政と市民団体が協働して回収を行い、13年間で約400トンを経済資源として、ごみの減量と埋立地の延命化につなげることができました。これは長野県内全体と捉えてください。

また、市民団体の立ち上げには女性の役割が大きく、循環型社会づくりにおける地域での女性の活躍も見受けられるような活動になってきました。今日は民間の団体の方たちとお話ができるので、このあたり、私たちの活動についてどのように捉えているかをお聞きしたりすることができれば、ありがたいなと思っています。

今日は、どうぞよろしく願いいたします。

(高島副議長)

ありがとうございました。

最後に、NPO法人みどりの市民、Iさん、お願いいたします。

(NPO法人みどりの市民)

よろしく願いいたします。

みどりの市民は、持続可能な社会の構築を目指して、平成15年に環境学習・教育に関心がある有志が集まり設立されました。暮らしの中から脱使い捨てプラスチックのライフスタイルを目指して、使い捨てプラスチックの食器の削減、セミナーの開催、生ゴミの削減、エシカル消費の推進など幅広く活動しています。

コロナ前は、イベントにおける使い捨てプラスチック食器の削減のために、リユース食器の利用促進の活動をしていましたが、現在コロナ禍で休止状態です。本日また問合せがあったりして、要請に応じていこうと思っております。

現在取り組んでいる海ゴミ関連の三つの活動を紹介します。最初の時は、オンラインによる海ごみに関する連続セミナーを開催し、昨年はプラスチック資源循環推進法、亀岡市のレジ袋の禁止条例の取組など、プラスチック削減に関する学習会や全国の先進的な取組の紹介を行いました。

その一端として、皆様も御存じかと思うのですが、アメリカのニューヨーク州のブルックリン地区の小学5年生のドキュメンタリー映画『マイクロプラスチック・ストーリー～ぼくらが作る2050年』の映画の上映を実施しました。この映画はプラスチックの削減のために、子どもたちが自ら学び活動し、変革を起こしていく内容のすばらしい映画でした。この映画をもっと多くの子どもたちに見てもらうために、映画の上映の支援活動を現在行っています。

二つ目の取組は、プラスチックを使用しない生ゴミの削減活動として、生ゴミの堆肥化ネットワーク「どんぐり・るるネット」の運営をしております。この活動は生ゴミの自家処理を実践する会員さんを募る、段ボール箱による自家処理のために必要な機材を配達し、会員さんが自家処理した一次生成物を回収し、畑に還元するというシステムです。このときに使う機材は、長野市の信州新町のいわゆる西山地域の遊休荒廃地、生えて生えて困ってしまうハチクを整備して、その後、出てくる不用になったハチクを粉砕して生ゴミの堆肥化に活用しています。竹というものもすばらしい側面があるということを聞いています。回収した一次生成物は、運搬を担っていただいている社会福祉法人花工房福祉会の畑に卸し、お花や野菜などの堆肥として使用しています。

三つ目の活動は、エシカル消費を通じて脱使い捨てプラスチックの意識の啓発を行っています。9月30日、10月1日に長野市の芸術館で行われます「信州環境フェア」と同時に開催される「エシカルふえす」で、脱プラ製品の紹介を行います。

このように私たちは、共に市民への意識啓発、子どもたちへのいろいろな情報提供を通して脱プラのことを推進しております。「どんぐり・るるネット」のチラシを御覧いただけたらと思います。どうもありがとうございました。

(高島副議長)

ありがとうございました。

皆さんそれぞれ独自の取組を分かりやすく御説明いただきました。

## ○グループディスカッション

(高島副議長)

これから、意見交換に入りたいと思います。いくらか、時間が押しておりますが、この時間を充実したものとし、皆さんでいろいろなお話をしていただきたいと思います。改めて、テーマを申し上げます。「～環境政策のごみ問題はいま～ 循環型社会づくりをどう進めますか」ということで、皆さんの取組における課題であったり、環境政策にはどんな取組が求められるかなど循環型社会づくりに関する御意見などについて、5つのグループに分かれて、意見交換をお願いしたいと思います。

進行ですが、各グループの広報委員が行いますので、45分間での進行に、御協力をお願いします。

それでは、事務局でグループ分けを行ってください。

## (グループディスカッション45分間)

## ○意見交換感想発表

(高島副議長)

それぞれのグループに分かれて、団体の皆さんから魅力的なお取組の紹介の後にまた深めていただいたと認識しております。それぞれのグループでディスカッションしたことを、グループ代表の広報委員から、内容や感想をまとめて発表していただくのがこれからの時間になりますので、お願いいたします。

では、順番にAグループから、寺沢委員をお願いしたいと思います。

(寺沢委員)

Aグループでは、様々な御意見がでました。プラスチックをゼロにする必要はないのか。プラスチックが悪だというような風潮があるわけですが、決してそうではなくて、いかにプラスチック製品を自然界に流出させることなく循環をうまくさせていくことが一番の大事なところ。そういったところで、その情報発信だったり、皆さんに理解していただくことがまさに大事、そういった取組が必要ではないかという御意見が出ました。

それから、各団体、地域、あるいは企業が様々取り組んでいるわけですが、その取組がそこで終了してしまっている。もっと団体同士が協力したり、あるいはそこに企業が入って

くれば、もっと活動に広がりが出てくるのではないか。そういった意味では、マッチングに行政、県が入っていくことが必要ではないかという御意見も出ました。

県の取組として、やはりいろいろ情報発信などを行っているのですが、その情報発信だったり、広告が紙ベースであったり、ポスターであったり、リーフレットであったりと、そこが矛盾があるのではないか、もう少しそういうところも考えたほうがいいのか、まさに県の取組にこそ企業・民間の意見を取り入れて、協働してやっていくべきではないか、そういった意見が出ました。以上です。

(高島副議長)

Aグループ、ありがとうございます。

では、Bグループは私からですが、Bグループは通信環境がよくない中で、意見交換を深めるというよりは、それぞれ皆さんのお話をお聞きするという感じになってしまいましたが、我々も、小売、流通、廃棄物の末端からの回収及び中間処理、最終処分、それを今後どう改善していくかという研究・開発、それから行政機関、いろいろな管理や計画をする、それを実行していく。そして市民活動というお立場で、あるいは研究者であられる、たまたまうちのグループにはお二人信州大学の先生が入られていて、行政の計画にも様々関与されている見識の深い方というグループ構成でしたので、もっとたくさんお話しいただければよかったですけれども。

結局ごみの問題、手に入れてから消費してどこまで処理ができていくかという資源循環の中では、上流から下流までをどう捉えて、そこにそれぞれの団体というか、それぞれの責任をどのように果たしていくかという観点がとても大事だと感じられた話合いになりました。

例えば、有機ごみというものが、今具体的にどのように出ていって、それをどのように処分していくことが求められていくかというような問題提起もありましたけれども、これは深めることが十分できていませんので、これからの私ども県としての、あるいは自治体の中での取組で、少し注目をしていくところなのかと感じました。

今コロナ社会で、飲食店からたくさんの食品がそれぞれの御家庭や消費者に供給されている中で、このような課題について、もう少し深掘りをしていく、今はそういうタイミングなのかと私自身は感じました。発表者の主観がたくさん入ってしまいましたが、以上です。

それでは、Cグループの竹内委員、お願いいたします。

(竹内委員)

では、Cグループについて報告いたします。グループの中に廃棄物を処理する企業の方もいらっしゃるしまして、そういうお立場ですと、廃棄物が多ければ多いほど売上が上がるということで、立ち位置が非常に複雑でジレンマを感じるという言葉が非常に印象に残りました。そんな中でも、少しでも環境に負荷を掛けないような処理の仕方を研究していらっしゃるというこ

とでございました。

また、松本市さんから、可燃物の中に入っているプラスチックも、今後回収していくというお話もありまして、流通に乗っていなかったようなそういったものをこれからどう考えていくかということも大事だというお話や、長野県の気質なのか、プラスチックがきれいに洗っていないと出せないというような意識が多いので、多少の汚れでも処理できるように、回収できるようにするというお話を聞きました。

また、私ども県のほうに対しての御意見としては、最終処分場の整備についてですが、やはり広域的な視点での処理が大事ということで、県として主導的に全県的な対応をしていただきたいという要望もいただきました。また、市町村ではなかなかできないところを事業者の皆様と連携を深めることで、循環型社会がつくっていかれるのではないかと御意見をいただきました。

また、政治的な視点を使って、長期的にはインセンティブをつけることも検討していったほうがいいというような御意見もいただきまして、大変先進的な取組をされている方ばかりでしたので、非常に勉強になりました。どうもありがとうございました。以上です。

(高島副議長)

次に、Dグループの清水委員、お願いします。

(清水委員)

清水のほうからDグループの発表をさせていただきます。

お話しいただいた中で、スーパーを御利用されているというところで、冷蔵ケースの入れ替え・更新等で大分環境に対する貢献が大きくできているというお話がありました。やはり大きな予算がかかるので、全てというわけにはいかないというお話がありました。我々もスーパー等を使っておりますが、ぜひ、冷蔵のところを開けたら閉めるということも意識しなければいけないと個人的に思ったりしました。

また、食品廃棄物についてお話があったのですが、食べられるのに廃棄してしまうものが多いというのを何とかもう少し減らしていくことができればと。フードバンクとのつながりも、各団体等で模索していただいたりしていますが、やはり行政としてそういったところのマッチング等ももっと積極的に関わればいいのではないかと、そのように感じました。

あと、我々の中では陶器のリサイクルをされているというところで、「暮らしと環境」の皆さんからお話があったのですが、まだ今は松本の2地区だけということで、各地で広がるようにできたらいいのではないかと、そのような声かけを県のほうでもしていければという話がありました。

その際、我々も初めて知ったのですが、陶器が新しいものに生まれ変わるということを知らない方が多いので、そういった情報もしっかりと発信していければいいのではないかと

話もありました。

あと、そういったイベントをする際、ボランティアの確保等も含めて行政がお手伝いできればいいのではないかと、そのような話もありました。

また、現在は陶器だけになっていますが、ガラスとかそういったものができる事業者もあるかもしれませんので、そういったところの調査等も行政のほうで行うことで、もっと集められ、新しく生まれ変わるものも多くなるのではないかと感じました。

今、例えば割れた食器などは業者の方で回収していただいたりしていますが、割れたものでも大丈夫みたいなので、そういう回収業者からも新しく生まれ変わるような事業者を持ち込めることができればいいのではないかと。今は廃棄物として出されてしまうと、業者とするとそれ以上の展開がなかなか難しいので、そういった部分の許可等を行政のほうで考えることができればいいのではないかと、そのような話がありました。

なかなかまとまりませんが、以上です。

(高島副議長)

最後にEグループの和田委員、お願いします。

(和田委員)

Eグループです。私は今日いろいろ企業さん、ごみを資源として生かして使っている皆さんや、市民グループとして活動している方々のお話を聞いて、企業さんも収益目的で企業活動をしているけれども、やはり地域貢献のために収益を生かして使っている、それが地域に還元される、そういうお話が最初にあって、それは本当に私たち日頃なかなか気づかないお話で、聞かせていただいてよかったなと思いました。

またそこから、ごみの削減、プラスチックのごみの削減、使い方によっては資源になるという中で、消費者の側で言えば、本当ならお店の中で売っているもので要らないものもある。ストレートに言えば、例えばお刺身のつまのところにあるバランのようなもので、生ゴミ堆肥化にはそういう小さいプラスチックこそ邪魔になるというお話がありました。企業さんにすれば、当たり前と思っていたけれども気づかされたというお話が、グループの中でされたのはよかったなと思いました。

改めてどの活動をする皆さんも、本当に社会の中で循環させるごみの削減、生ゴミの削減、そして地域をよくする活動のために御努力いただいていることが分かりまして、そこにもう少し行政としても、いろいろな法律や制度があってもそれが使い勝手が悪いものであれば駄目だということで、ちょっとした工夫でそういう活動を応援できるものがあるのではないかとというお話を最後に聞かせていただいたところです。

やはり、スーパーとメーカーさんとがいろいろなSDGsやエシカル消費を連携して取り組んでいることを情報提供してもらっているけれども、もっと行政として消費者に届くようにして

ほしいとか、プラ削減や廃棄物の削減のために頑張っていることも、本当に消費者の皆さんにしっかり届くような形で応援してほしいとか、特定家電のリサイクルについても、県外に持ち出さなくても地域でできる業者にもっとしっかりやっていただけるような許可を与えてほしいとか、そういうお話を聞いて、いろいろ参考になることがありました。こういうことを私たちも生かして頑張っていければというお話を、今日はたくさん聞くことができたと思いました。ありがとうございました。

(高島副議長)

ありがとうございました。

では、残りの時間で、各団体の皆様やほかの議員からの御意見や御感想を頂戴したいと思います。本当に僅かな限られた時間ですので、遠慮される方もいるかもしれませんが、この際ぜひお願いしたいと思います。

発言される方は、カメラに向かって挙手をいただきまして、私が指名したらマイクをオンにし、所属とお名前を言って御発言をしていただきたいと思います。いかがでしょうか。

お願いします。

(イオンリテール株式会社北陸信越カンパニー)

イオンのJです。それぞれ行政やいろいろな企業さんのPRする場所として、イオンのショッピングセンターを御利用いただいています。不特定多数の県民の方がお買い物に来られる場所ですので、公共の施設よりもたぶんPRしたときに、それを耳にしたり目にしたりする数は多いと思いますので、そういったPR活動や広報活動をされる場合は、イオンの施設を御遠慮なく御利用いただければいいと思います。以上です。

(高島副議長)

ほかに御発言ありますか。

松本市「暮らしと環境」を考える会、Kさん。

(松本市「暮らしと環境」を考える会)

今、各企業さんの店頭回収という話を聞きました。この店頭回収が進むことはいいのですが、例えば、松本市のごみは最近減っているというのです。だけれども、それは店頭回収が増えているからごみが減っているのではないかと私は疑いを持っています。

店頭回収が増えるのはいいのですが、松本市が、松本市でごみが減っていると松本市民にPRするのは、かえって市民に対するごみ意識にマイナスのイメージを与えてしまうのかなど。実際に本当に減っているのかと疑問を持ちながら、この問題を考えていかなければいけないと思っています。

全県的にもごみの量が少ないです。でも、それは本当にほかの県と同じような集計でごみの量が集計されているのか、その辺がよく分からないです。結果としてごみが減っているということですが、本当にそうなのかということは今思っています。以上です。

(高島副議長)

ただいまのKさんのお話は、御意見ということでよろしいでしょうか。

(松本市「暮らしと環境」を考える会)

結構です。

(高島副議長)

ほかに、お一人、お二人いかがでしょうか。

NPO法人みどりの市民、Lさん、お願いします。

(NPO法人みどりの市民)

今のKさんの御質問で、長野県が少ないのは本当なのかとおっしゃられていますが、1人当たりのごみの量の計算方法は一応全国統一でやっているはずで、どこに出そうと最終的にそれはまとめられるはずですので、それは合っていると思います。

松本市の集計についてまで私も分かっていないので、そこは分かりませんが、県は、1番、2番は間違いないと思います。

(高島副議長)

それでは、松本市「暮らしと環境」を考える会、Hさん。最後になりますがよろしいですか。Hさん、お願いします。

(松本市「暮らしと環境」を考える会)

お願いします。私も少なくなってきたという数字はとても疑問に思っていて、今、Lさんが全国統一で同じようにやっているから大丈夫ですということだったと思うんですけども、私も職員に聞いてみたことがあるのですが、民間のほうに出された不燃物、ああいうものは統計されていないのではないかという御意見も聞いたことがありますので、もう一度このあたり、本当に少なくなっているのかを県のほうで調査していただければはっきりしていいと思います。お願いいたします。

(高島副議長)

御要望として承りたいと思います。

ほかに御発言もあろうかと思いますが、大変申し訳ございません。次に移らせていただきたいと思います。

## ○議長所感

(高島副議長)

最後に丸山議長から御挨拶を申し上げます。丸山議長、お願いします。

(丸山議長)

ありがとうございました。本日は限られた時間の中で、大変熱心な意見交換をしていただきました。意見交換では、多くの貴重な意見をいただいたと思っております。環境問題は、皆さんの積極的な活動があって、それぞれの事情に合った計画的な取組が重要だと考えているところでございます。

今回は各地域から多様な立場で御参加をいただきました。結構話題も多岐にわたった意見交換ができたと思っております。

私は寺沢委員のグループに参加させていただいたところでございますが、貴重な御意見の中で、やはり我々は昔に比べ暮らし方の変化によって、地球環境への負荷、負担が大変大きくなっているとも感じているところでございます。その結果、地域によっては温暖化であったり、ごみ問題、生物多様性等々、多くの問題が起きてきていると認識をしているところでございます。

一口に環境問題と言っても大変話が大きくて雲をつかむような話になってしまうわけですが、それぞれの御意見を頂戴する中で、長野県も徐々にそういったゼロカーボンに向けた環境問題の取組をされているのだと感じたところでありますし、近年はSDGsの関心も高くなってまいりましたし、問題意識も高まってきていると認識をしているところでございます。

今回の話合いの中でも、もっと意識改革をしなければというようなこと、またリサイクルの輪をもっと広げていかなければいけない、また、認知度を上げていかなければいけないというような話もいただきました。行動を変えていく、また意識を変えていかなければいけない、そんな意見も頂戴いたしました。県としても、そういったことにこれからしっかり取り組んでいかなければいけないだろうと思っているところであります。

今回は多様な立場から、各地域からの参加によって話題を広げていただきまして、本当に感謝申し上げる次第でございます。

いろいろな意見を聞いて、環境政策やごみ問題が、皆さんにとりまして、様々な立場から実感いただく機会になればと感じているところであります。私たち議員も、本日いただいた御意見をしっかり受け止めながら、今後の議員活動に生かし、テーマにもあります循環型社会の実現を目指して努力をしていかなければならないと思っているところであります。

私たちも、県民の皆さんに身近に開かれた県議会を目指し、今後も世代や地域に関係なく、

県民の皆さんの顔が見える関係をより強くするため取り組んでいきたいと考えております。本日は本当にありがとうございました。

## ○閉会

(高島副議長)

丸山議長、ありがとうございました。

以上をもちまして、「こんにちは県議会です」を終了といたします。参加者の皆さん、事前の準備から本日まで、大変、御協力をいただきました。御理解をありがとうございます。

オンラインでの開催ということで、大変ご不便をおかけした点もありました。申し訳ございません。改めて、感謝申し上げるところでございます。

本日は、大変、お疲れさまでした。